

令和元年度(中間)学校関係者評価

令和2年3月26日(木) 学識経験者2名(実習施設代表・講師代表)、保護者2名(看護学科保護者代表・看護保健学科保護者代表)、同窓会が推薦する者1名及び大学校教職員5名の計10名の出席のもと、学校関係者評価委員会を開催した。

初めに、大学校教職員から、令和元年度に行った大学校独自の「学校自己評価・点検評価表」に基づいた評価の結果が報告された。(資料参照)

説明後、学校関係者評価委員から、多くの質問と意見・提案があったが、主な内容は次のとおりである。

1 概要

- (1) 評価数値の根拠をより客観化できることが、課題解決につながりやすい。
年度の初めに方針・目標を具体化してはどうか。
- (2) 人事考課に関する評価が低い。
教職員の働きを認めるという点においても、人事考課に取り組む必要性があるのではないか。
- (3) 図書について、評価は「3」であるが、蔵書新鮮度が0.004は低すぎる。
改善に取り組んでもらいたい。
- (4) 国際交流についての評価が低い。京都の地であることや教育理念にもグローバルな視野とあることから、課題を明確にする必要性があることを自覚していることについては、一定の理解はできる。
- (5) 受験生確保に向けての発信力が弱い。学校紹介のパンフレットを含めての宣伝活動が弱いのではないか。この学校の素晴らしさをもっと伝えて欲しい。

2 まとめ

複数の学校関係者評価委員から、全体的に自己評価が低いのではないかという意見があり、また、取り組み状況についても、もっと評価を上げて良いのではないかという意見であった。

これらの意見から、評価基準の見直しと、その評価の反映が期待される。

今回は令和元年度(中間)の報告であった。再度、学校自己評価・点検表の基準を見直すとともに、課題解決に取り組む必要性を痛感させられた。

最後に、学校関係者評価委員の皆様には感謝申し上げます。

学校自己評価委員会